

前記ノ如ク現實同盟派ノ提案ニ依リ比較的速ニ爭議
解決スルモノト考ヘ居タルニ爭議固側ノ結果意外ニ

強固ニシテ到底現實派ハ爭議固側ノ對抗ニ得サルヲ

知リ一

然るに會社は、通機關の社會的
使命や公共事業の本質を全然没
却して今日尙少しも顧みないの
です。

毎期の決算報告には一割二分以
上の配當を行ひ重役共は數萬圓
の賞與を懐中に捲き込んで御客
様の不便や、危険防止設備なん
か、全然どこを風が吹くと云ふ
状態で一向改善の片鱗すら見せ
ないのです、その証據には今回
私等従業員一同が毎日御客様か
ら不平や、危険を見るに忍びず
して會社に嘆願した左の事項に
對しては、全然拒絶して居ます。

會社は更に一増暴利を貪る爲め
來る十二月十七日の株主總會で
王子電氣會社と東京電力會社と
の合併問題が出るらしいのです
東力保會社の重役はその際自分
等の手に安く王子電鐵の株を買
収する一つの手段として殊更に
平坦に波瀾を捲き起し、その動
搖によつて株價を引下げ安い金
で王電を買収しようと云ふのが
今回起つた爭議の根本的な原因

の會社の重役共の利權の遺
具に天下の公器に等しい交通機
關が利用されるに至つては最早
や歇止する事は出来ません。
事ここに至つては私達従業員が
直接勞働しなかつた場合、會社
の利益はどこから出るかと云ふ、
最後の力をこの會社の強慾一点
張り重役共に見せ付ける必要に
急々迫られました。

然し乍ら私等は飽くまで御迷惑
を避けるため最後の力を示す場
合は一應前以て御知らせ致しま
す。どうか沼線住民諸君並に乘
客諸君の御聲援を切望すると同
時に會社當局の頑明と横暴の異
相を發表するものであります。

福及の

向其後

昭和二年十二月 日

王子電鐵従業員爭議團

別記

歎願書

忘え

我等、迅速ナル組合主義ニ立脚シ今回改メラ王子電鐵従業員ヲ代表シ左ノ數項ニ
互レ修通改善ヲ歎願致シマス 歎テハ従業員ノ勤勞状態ヲ改良シ乗客ニ對シテハ悉
切ノ皆ムレ内務ノ肅正ヲ期スル次第ニ付又何卒御聲援ノ上御決定下サレ度備ヘニ御
願致シマス

一、労働組合ヲ承認致サレ度

二、職首者ヲ復職致サレ度

三、出勤停止者ヲ即時取消サレ度

四、年功手当ヲ支給致サレ度

五、被服貸與方法ヲ改正致サレ度

六、車内乗客ノボヤリ車ヲ使用致サレ度

七、信号手ニ精勤賞ヲ支給セラレ度

昭和二年十二月七日 王子電氣軌道従業員代表

秋田 徳一
伊藤 市太郎
園 三巳

王子電氣軌道株式會社 御中